来賓挨拶

一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構　所長
西村　周三

第25回ヘルスリサーチフォーラムの協賛機関である医療経済研究機構を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

最初に、これまで25年もの長きにわたり、国民一人ひとりのクオリティ・オブ・ライフの向上に向けて幅広く充実した研究助成を継続されてこられたファイザーヘルスリサーチ振興財団様のご貢献に対し、深く敬意を表するものでございます。また、本日は第25回という記念すべき年に、ヘルスリサーチフォーラムが『人生百年時代のヘルスリサーチ』というテーマの下、大変充実した内容で開催されておりますことを心からお喜び申し上げます。

折りしも政府はこの5月に、2040年における社会保障給付費の負担とその在り方についての姿を提示し、財政的な側面だけではなく、地域社会や社会保障を支える就業者の姿についても検討を加えました。さらに、10月には厚生労働省が2040年を展望した社会保障、働き方改革の検討のためのプロジェクトチームを立ち上げました。

昨日ストックホルムで行われたノーベル賞の受賞記念講演では、京都大学の本庶佑教授が、がんの克服の可能性についてお話をされました。2030年頃を見越して、その頃、がんの発症をなくすということは難しいけれども、免疫療法の発展により、がんがかなりの程度克服されるのではないかというお話でした。

これらはいずれも今日のフォーラムのテーマであります『人生百年時代のヘルスリサーチ』という調査研究と密接に関連しております。医療の発展と、それを支える社会経済環境の整備は、それぞれ切り離して議論できない課題であると認識しております。例えば、100歳時代の高齢者は、もはや支えられるだけの存在ではなく、社会の一員としてどのように社会に貢献するかという課題も考える必要が出てまいったと感じております。

本フォーラムで多岐にわたる研究成果が、現在、発表されておりますが、この蓄積が今後のヘルスケアの充実に向けて大きな原動力となると期待しております。今回の報告に関して、ファイザーヘルスリサーチ振興財団様の活動は、今後ますます重要なものになり、かつ、多くの者が期待している助成であると考えております。

今日は、僭越ではございますが、弊機構の副所長であり、東京大学特任教授である辻哲夫が特別講演を仰せつかりました。誠に光栄に存じますとともに、このフォーラムの充実に少しでも寄与できればと願っております。

今回も協賛をさせていただいております私ども医療経済研究機構は、わが国における医療経済・医療介護政策に関する研究を促進することを目的とした研究機関です。今後もファイザーヘルスリサーチ振興財団様と相互に連携を図り、ヘルスケアリサーチの分野における調査研究を振興し、共に社会貢献ができればと願っております。

最後に、本日のヘルスリサーチフォーラムが今後のわが国におけるヘルスケア研究をさらに推進していく契機となりますとともに、本日ご参加されました皆さまがたの今後の研究や様々な現場での取り組みの発展につながっていくことを心から祈念申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。